

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

図書館・情報学専攻

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

図書館・情報学専攻後期博士課程では、課程修了時に学生が修得すべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（図書館・情報学）の学位を与える。

1. 図書館・情報学分野の研究を内容として博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成すことができる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い学識を有し、国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 情報や知識の視点から人間、文化、社会を深く洞察する力を持ち、図書館・情報学分野において問題や課題を発見し、それを解決していくため、実践的な高い研究能力と高度なリテラシーを身につけている。

【カリキュラム・ポリシー】

図書館・情報学専攻後期博士課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 情報学、情報メディア、情報システム、情報検索の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する科目を中心とした履修を行うとともに、指導教員が中心となって個別に論文指導を行い、高度な研究能力と課題発見能力、高度な論述力、表現能力を養う。
2. 博士学位取得のためには、学生は専攻、分野が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、博士論文を文学研究科委員会に提出して受理される必要がある。さらにその後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査および副査によって論文が審査され、文学研究科委員会に報告された審査報告に基づき、文学研究科委員全員の投票によって合格しなくてはならない。
3. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、独自の貢献をするために必要な高度な研究能力を養成するため、母語もしくは英語による少人数演習科目を設置する。研究成果を学会や学術専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。

4. 文学研究科ならびに慶應義塾大学国際センター等を通じての留学を推奨する。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学をはじめとし、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
6. 研究分野のより専門的な研究を可能とするために、海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。
7. 博士課程の学生の高度に専門的な研究を推進するために、海外の著名な研究者に副指導教員としての指導を依頼し、文学研究科委員の指導教員との共同指導のかたちで博士論文を準備することができる。

【アドミッション・ポリシー】

図書館・情報学専攻後期博士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、まとめることができる。
3. 英語の専門文献を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、学術的な論述力を身につけている。
4. 博士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。